

2021年度 北本市少年野球連盟主催大会 競技運営規則

令和3年2月27日

〔適用大会名〕

- 1 春季県南代表決定大会
- 2 春季少年野球大会
- 3 夏季県南代表決定大会
- 4 秋季少年野球大会
- 5 新人戦大会

〔大会規則〕

- 1 正式な試合回数は、7回とする。
- 2 一試合の試合時間は1時間30分とし、これを超えて新しいイニングに入ることはできない。
- 3 時間内の延長戦は9回までとする。この場合、1人の投手の1日の投球回数制限は適用しない。
試合は、1時間30分を過ぎても同点の場合、リーグ戦は引き分け、トーナメント戦は最後に出場していた選手9名の抽選により勝敗を決定する。
- 4 ただし、春・夏季県南代表決定大会に限りタイブレーク方式を採用することとし、その方法は軟式野球運営細領による。
- 5 暗黒、降雨その他球審によって打ち切りを命じられた場合(コールドゲーム)は、5回(4回1/2)終了で成立とする。同点の場合は抽選とし、それ以前については再試合とする。
- 6 得点差のコールドゲームは、3回(2回1/2)以降12点、5回(4回1/2)以降7点とする。
- 7 1人の投手の1日の投球回数は、21アウトとする。(21アウト目のダブルプレー、トリプルプレーは1アウトとする。)
- 8 投手は手袋及び手首にリストバンド(サポーターなど)を使用することは禁止する。
※打者、走者、守備時の手袋及びリストバンドの使用は認める。
- 9 捕手は、防具(ヘルメット、マスク(スロートガード付)、プロテクター、レガース及びファールカップ)を着用すること。
※ 控え捕手も投手の投球を受ける時及びシートノックの際にも防具を着用すること。
- 10 ヘルメットは、公認(JSBB)の両耳付きとし、打者、走者及びランナーコーチ、ボールボーイも着用すること。
- 11 使用球は公認軟式球J号とし、主催者側で用意する。ロージンバッグは、各チームで用意すること。
- 12 金属バットは、公認(JSBB)されたものを使用すること。木製の場合は、グリップテープなしのものとする。
- 13 シューズは、金属製スパイクの使用を禁止する。
- 14 出場チームは、試合開始予定時刻1時間前までに、会場に到着すること。
- 15 会場到着時及び退出時には、大会本部に申し出ること。
- 16 春季大会の開会式を主催大会の総合開会式とし、**入場行進は、各チーム登録した選手全員**でおこなう。
※閉会式及び表彰式は、各大会毎におこなう。
- 17 ベンチは、組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。
- 18 ベンチ入場者は、大会毎に登録した選手20名以内と、指導者(監督、コーチ、スコアラー)4名以内とする。
※登録した指導者に変更がある場合は、当該試合の攻守決定までに大会本部に届け出ること。
- 19 ベンチ入り指導者(4名)は、選手と統一されたユニフォーム(帽子、ストッキングを含む)とし、サングラスの使用は可とする。但し目が確認できないミラーグラス等は認めない。 ※ スコアラーは、帽子のみでもよいこととする。
- 20 各チームは、試合開始予定時刻30分前、又は、前試合の4回終了時に、大会本部にメンバー表(3部)を提出し、審判員立会いのもと攻守を決定しておくこと。
- 21 試合開始予定時刻前であっても、原則として、前の試合が終了して20分後に次の試合を開始する。
また天候等の都合により試合開始時刻を繰り上げ・下げることがある。
- 22 試合開始予定時刻を過ぎても、会場に現れないチームは棄権したものとする。
- 23 シートノックは5分間とする。ただし、当日2試合目の場合は、シートノックなしとする。
- 24 試合中のファールボールは、落下地点側ベンチで処理する。バックネット前のファールボールは攻撃チームが処理する
- 25 塁間は23mとし、投手板と本塁間は16mとする。
- 26 ピッチャーズプレート中心を基点として、本塁から両翼70mの位置を結んだライン上にホームランネットを設ける。
ただし、グラウンドの状況に合わせた位置に、ホームランネットを設ける場合がある。
- 27 塁審は、組み合わせ表のとおりとし、各チーム2名従事すること。(各市町の審判講習会受講者に限る)
- 28 選手、指導者及び応援席の父母等は、球場内外を問わずマナーに留意し、品位を損なうような行動をとらないこと。
- 29 各チームの指導者は、今大会開催につき決められた事項を、チーム全員に徹底すること。

〔審判上の注意事項〕

- 1 試合は、スピーディに進め、遅延行為とならないように充分注意すること。
- 2 攻守交代を迅速に行うために、選手は走って守備位置を往復すること。
- 3 監督は守備中にタイムを取った場合、投手のところ(マウンド)へ行き指示することができる。
- 4 プレーの判定に対する抗議権は、当該プレーヤー又は、監督のいずれか1名とする。
- 5 一試合のタイム取得回数は、攻撃・守備及び監督で各3回合計9回を限度とする。
(攻撃の場合は、選手を呼んで指示した時とする。)
- 6 投手の投球練習は、先発時と交代時は7球とし、2回目以降は3球とする。
- 7 守備側からの要求で試合が停止された場合、投手は投球練習をしてはならない。
- 8 野球ルールの解釈決定は各審判員が行うが、事態が紛糾したときは、速やかに4氏が集まり協議の上球審が最終判断を下す。
- 9 基本的なルールの解釈は、公認野球規則による。